

## NPO法人ちゅうぶ（自立生活センター・ナビ） 機関誌「ナビゲーション」のインタビューを受けました。

9月1日、NPO法人ちゅうぶ（自立生活センター・ナビ）の機関誌「ナビゲーション」の掲載にむけたインタビューを受けました。

「ナビゲーション」の山下大祐編集長から、畑野本部副委員長、三田関西地区分会長、上田関西地区分会特別執行員がインタビューを受けました。

これまで、「ちゅうぶ」のみなさんと、新幹線車両の車いすスペース、スロープ、障がい者割引切符の予約、駅の無人化などについて意見交換を行っています。実施に、車いすスペース車両の乗車やスロープの乗降の体験を通じて貴重な意見を頂いています。



「ナビゲーション」は、自立生活センター・ナビが、障がい者の自立に関することをテーマに年3回発行していて、大阪府内の障がい者施設、スポーツ施設、福祉施設、学校などに送られています。

今年度は「交通・まちづくり」がテーマで、今回のインタビューは11月号に掲載される予定です。

インタビューは、「業務（仕事）で、お身体のご不自由なお客様などと対応して、感じたこと、気付いたこと、怒られたこと、良かったこと」「車いすスペースやスロープなどの問題を一緒に取り組んできて感じたこと」「J R 東海としてハード面、ソフト面で変わってほしいところ」「障がい者、高齢者が安心して新幹線を利用するために必要なこと」「どうすれば障がい者が健常者と同じような対応が可能になるのか」などでした。

私たちJ R 東海からは「障がい者や高齢者のみなさんをはじめ誰もが、安心、安全、快適、便利で利用できる鉄道」を目指して取り組んでいることを紹介しました。

